

境内だるま尽くし

今年も震災救援墨跡展

◇妙心寺派法輪寺

臨済宗妙心寺派法輪寺（佐野大義住職、京都市上京区下ノ下立売通）の節分大祭が今年も二月二～四日にわたって盛大に執り行なわれる。だるま寺の通称のとおり、三日間は故古川大航妙心寺派管長九十二歳の真筆「達磨大禅画」など、さまざまな“だるま”で全山埋めつくされる。おなじみ佐野住職の“だるま説法”。今年のテーマは干支にちなんで「その名は忠々子歳」で、三日間にわたって毎日六回、大書院において行なわれる。厄除開運・請願成就の起上がりだるまさん授与、ボケ封じご祈祷、般若大祈祷も例年通り厳修される。

佐野住職が揮毫した禅画、墨跡の展示即売は昨年同様、その収益金を兵庫県南部地震被災者の救援金に充てる。また中国の書家の書も数点出展され売り上げは中国で学校を建敢する資金の一部として使われる。

茶席弗云庵での抹茶接待（有料）および分福茶亭での無病息災ハト茶接待（無料）があり、空くじなし総当たりの分福福引なども用意されていて、この三日間は遠近からの参拝者で境内は大賑わいとなる。

なお最終日の四日には奉納された祈願成就の古いお札などを集め、総供養を営む。